



日本キリスト教団
三軒茶屋教会
http://sanchurch.jp

三軒茶屋 教会通り

〒154-0024
第35号 2009年4月発行 東京都世田谷区三軒茶屋 1-31-5
TEL/FAX: 03-3418-4933
発行: 三軒茶屋教会 広報部

今年には日本プロテスタント伝道一五〇年の節目を迎えたというので、教界内でいろいろな動きがあります。昨今の低迷する伝道事情の中にあつて、この状況を打破したいという思いはだれでも一様ですが、それはそれとしてプロテスタント伝道の草創期に目を向けることも意義深いことと思うのです。

一八五三年と言えば黒船の来航。日本はにわかに関国の流れへと変わり、一八五八年日米修好通商条約が調印され、

翌一八五九年これが発効すると、在留米国人の居留地内の宗教活動が保証されました。

日本宣教を窺っていた米国の諸ミッションから六人の宣教師が、横浜や長崎に次々とやって来ました。しかし未だキリシタン禁制の高札がかかっている時代、伝道に着手するまでに彼ら宣教師は、日本語の習得、医療活動、青年たちへの英語教授に携わりながら、聖書の和訳作業も進めていきます。

伝道らしい伝道の実りは、ようやく一八六五年、バラ宣教師により最初の受洗者・矢野元隆が与えられま

一五〇年史の草創期に想う

牧師 陣内厚生

した。以後七〇年代に入り続々と初代信徒たちが誕生していきました。異教の地日本に福音の種が播かれ、今日の教会が形成されてきたのには、言葉や習慣の壁を越えて伝道の戦いに挑んだ宣教師たちの存在があつたからです。

さて、この一月、私は鹿児島に旅をしたのですが、ある小さな土産物店で、その壁に掲げてあつた写真を見てアツと驚いてしまいました。

その説明文に「フルベッキ博士と幕末維新の志士達」とあり、一八五九年に来日した宣教師の一人フルベッキ師が中央に写っているのが、すぐに解ります。

驚いたのはそれを取り囲む四十四人のちよんまげ姿、そしてどの人物も腰刀を差している若き侍たち。彼らは日本の近代史に名を残した英雄や元勳まで、よくぞこれだけの顔が揃つたものだとならされました。今まで歴史書などで見たこともない

貴重な写真です。そして早速、そこにあつた本を購入してきました。

フルベッキ師は改革派教会の出身。長崎に来て、幅広い学問、国際情勢や政治学、語学を教えました。日本の行く末を案じる勤王志士たちが、西郷隆盛、大隈重信、岩倉具視らの呼びかけで密かに長崎に集結し、フルベッキのもとで二十日間研鑽と議論をした時の記録写真、だったので。とき一八六五年二月。土佐藩の坂本龍馬、後藤象二郎、薩摩藩の大久保利通、黒田清隆、長州藩の桂小五郎、高杉晋作、伊藤博文、佐賀藩の江藤新平、幕府の勝海舟など。



彼らはフルベッキ師の影響を受け、ある者は欧米に留学、ある者は即行動に移り、日本の近代国家形成に邁進していったのです。クリスチャンで初代文部大臣になつた森有礼もここにいました。フルベッキ師はまさに近代日本のキーパーソンだつたと言つても過言ではないでしょう。

現在プロテスタント教会の歴史はわずか一五〇年。教勢は振るわなくとも、世に貢献した度合はかなりのものがあるのです。私たちは決して力を落とさず、キリスト教信仰に確信と希望を持ち続けましょう。